8/2(日) まいど！倫娯です。昨日～今日 松江市主催の花火大会です。今日は10,000発
とか 大人から子供まで 皆さん 楽しみにしています。私は これから 岡山へ日帰りの出張です
YCE生（フィンランドの方）鳥取県 25日間の交流会へ送り届けます。
本当に楽しかった。又来て下さい。借金道、又楽しからずや

今週の倫理 936号 2015.8.1～8.7

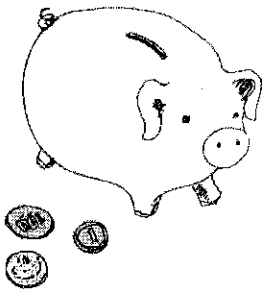
八月のテーマ 金銭は生きもの

借金を返すみち

幸せ運ぶアホー鳥へ

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二一―一九九九）のことばを掲載します。



え・古屋智子

借金を返すには、どうしたらよいのか。それは、返済しようとする意図を、明確にもつことである。これがまず第一に、そして根本的に必要な心がまえである。

そんなことはわかっている、などというなかれ。借金を返せないのは、じつは、この心がまえが、ほんとうにできていないからである。

じっさいの世の中は、ペンでかくようにスラスラとはこぶとはかぎらない。わかってはいても、どうにも泥沼からぬけだせないで、いつまでもあがいているような事例は、いくつもある。

しかし、ほんとうにどうにもならぬのであろうか。けっしてそうではない。かならずそこに、きりひらく道があるのである。借金を土台にして、りっぱにたち直る方途（ほうと）があるのである。それは、

【第一】に、金銭を貸してくれた人にたいして、心から感謝の思いを捧げ、日々に新たな感激をもって、しごとにいそしむことである。

【第二】に、借金をしていることを嫌がらずに、よろこんで受け入れ、人のため、社会のためを念願しながら、嬉々（きき）として働くこと、そして夫婦者は仲よくすることである。

借金をしたことを嫌がっていると、その苦境をのり切ることはむずかしい。借金することができたという事実こそ、じつはすばらしいのである。みこみのない人には、だれも金銭を貸してはくれない。そのことだけでも、うれしいではないか。

【第三】に、返すべき期日がきたならば、貸し主に対し、円満に話をつけることである。つまり、一方的にひとりぎめしてはならないということである。相手の意向どおりになんでもするという決心のもとに、相手を尊重して、相手のなっとくするやりかたで、その期日のつど、話をつけさせていただくことである。相手の好意をいいことにして、相手を粗末にあつかっていると、ますます自分が苦しむようになる。

【第四】に、金銭は生きものであり、もとの貸し主のほうへ絶えず返りたがっているものであることを思い、自分自身を楽にするような方途（みち）には、すこしも使わず、得られただけのものは、すみやかに貸し主にかえすこと。利息を惜しまないようにすることである。

すこし儲けがあると、ヤレヤレとすぐ楽をしたがるけれども、それはあやまりだ。返すことに追いたてられるような暮しではなく、返すことをこちら側から追いかけるような前向きの姿勢で、積極的に金銭を活かしてつかい、利益があるとすぐ相手に返すようにしてゆくと、ますます利益があがるようにできている。

ここに重大なカナメがある。ここを考えちがいして、惜しんだり、ケチケチしたりしていると、いつまでたっても、うだつがあがらない。自分のほうに引きよせようとすると、金銭は逃げてゆく。

くりかえしていうが、自分にはほんとうに借金を返す気があるのかどうかを、毛ほどのごまかしもなく自分自身に問いつめることである。ほんとうに返す気があるならば、借金は返せるし、返す気がなければ、けっして返せない。心が事情に先行するからである。

（月刊『新世』一九六六年九月号より）